

神戸新聞の北播版に掲載された「加東のカフェ」に本校生活科学科と「シャレード」の共同開発特別メニューと大阪大学COデザインセンターと北播磨県民局主催の「東条川疏水フォトコンテスト」に本校生徒会が撮影した写真が展示されているとの記事がありました。「東条川疏水」は、雨が少ない流域の水不足を解消するため1951年に完成した鴨川ダムを主な水源とする108キロの水路網のことだそうです。本校生活科学科のツアーの名称にもなり、見学コースにもなっていました。私が着任する前年には1日ツアーで関連箇所を巡っていたようですが、私自身地元にながら十分な理解がなく、写真展を見に行くことにしました。共同開発メニューが3月7日までの期間限定特別メニューとなっていたため、6日に行ってきました。写真左はそのお知らせとメニューになっています。早速注文し、メニューに書かれていることを確認しながらいただきました。「やしろ茶香る疏水ピザ(三草茶・加東市産いちご・ティラミス)」と「まぼろしの桃ジャムゼいたくソーダ」です。ピザの方は小野市にある「六ヶ井円筒分水堰」をイメージして作られており、イチゴの酸味が効き、抹茶のフレーバー



をふんだんに使用しクリーム味でとても美味しかったです。ソーダの方も桃ジャムの甘さと炭酸がうまくなみ合ってさっぱりとした味に仕上がっており、ピザとよく合いました。こういった機会をいただき、メニューとしてお客様に提供されるだけでなく、疏水についての理解を深めることができるのはとても大事なことだと思います。「シャレード」さんのご協力

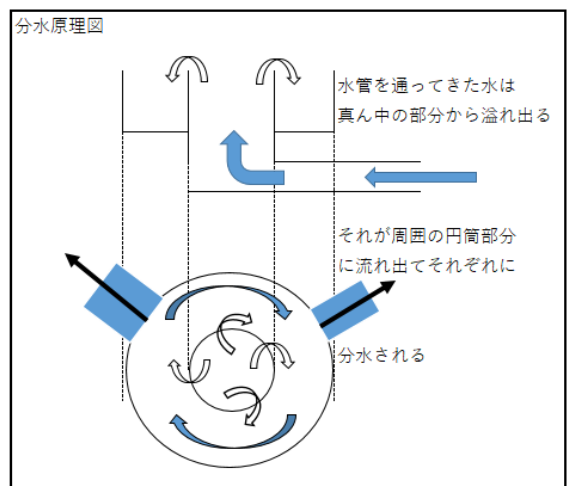
と大阪大学の企画に感謝いたします。ありがとうございます。

小野市の「六ヶ井円筒分水堰」は近くにありながら行ったことがなかったので、その後見に行きました。水田に水を引くのに古くはため池を作り、水の確保に各地域で苦勞があったことはご存じの通りですが、この地域では鴨川ダムを作り、そこからの水の供給範囲を広げてきた歴史があるようです。そこで原理としては、鴨川ダムの高さそこから低い位置で水が湧出するような仕組みを作り、その間を写真右のパイプで結びました。そして円筒形の真ん中部分から水が湧出するようにしてそれぞれの地域に分水したとのこと。これは、水の取り合いで争いごとが起こらないように公平に分水するための形であり、よく考えられています。また、パイプもかなりの距離で「曽根サイフォン」は日本最長クラスだそうです。このことによって水田への水の供給の安定が図られたようです。いろいろと探っていくととても興味深く地域のことを知るきっかけとなることができました。



最後は秋津富士と呼ばれるところに行き、東条湖を望むように写真を撮ってきました。天気も良く、なかなか良い景色でした。

今週末は複数志願選抜入試があります。新型コロナの関係で、11日を生徒登校禁止にして準備をします。いよいよ大詰めになってきました。新学年の準備が一気に進んでいきます。この時期の過ごし方は本当に大事です。時間を大切にして準備を進めてください。



六ヶ井分水の方が鴨川ダムより高さが低いため鴨川ダムから流れた水は六ヶ井分水より溢れ出る